

平成23年度

香川大学大学院地域マネジメント研究科
アドバイザーボード会議報告書

平成24年7月

目 次

アドバイザーボード委員名簿・・・・・・・・・・ 1

I アドバイザーボード記録・・・・・・・・・・ 3

(平成24年7月18日)

アドバイザーボード事前説明記録・・・・・・・・ 15

II 説明資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

国立大学法人香川大学大学院地域マネジメント研究科

アドバイザー・ボード委員名簿

経済界 (五十音順)	(委員長) 木村 大三郎	ネットヨタ高松株式会社 代表取締役会長 香川経済同友会 特別幹事
	鴻池 正幸	大倉工業株式会社 取締役会長
	洲之内 徹	四国電力株式会社 取締役副社長
	竹崎 克彦	株式会社百十四銀行 会長 高松商工会議所 会頭
	(委員長代行) 松田 清宏	四国旅客鉄道株式会社 代表取締役会長 四国ツーリズム創造機構 会長 香川経済同友会 特別幹事
行政	天雲 俊夫	香川県 副知事

敬称略

アドバイザー・ボード日程

期 日：平成 24 年 7 月 18 日（水） 12：00～13：00

会 場：香川大学幸町キャンパス又信記念館 2階 第2会議室

議 事

12：00 開 会

研究科長挨拶

配布資料の確認

アドバイザー・ボード委員の紹介

地域マネジメント研究科出席者の紹介

12：15 自己点検・評価報告

12：30 平成 23 年度事業報告

12：45 審 議

13：00 閉 会

I アドバイザリー・ボード記録

板倉：

香川大学大学院地域マネジメント研究科 平成 23 年度アドバイザリー・ボードを開催させていただきます。

最初に、私からご挨拶をさせていただきます。昨年 4 月より研究科長を務めさせていただいております、板倉でございます。まずお礼を申し上げさせていただきます。委員の皆様にはご多忙の中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。深くお礼申し上げます。本ボードは、平成 16 年度の地域マネジメント研究科の開設と共に発足し、今回が 8 回目となります。昨年 7 月のアドバイザリー・ボードは台風のため中止となりましたが、代々の委員の方には当研究科の運営に関しまして貴重なご意見を頂き、今日まで支えていただいております。

現在、委員をお務めいただいておりますのは、鴻池（こうのいけ）大倉工業会長様、洲之内四国電力副社長様、松田 J R 四国会長で四国ツーリズム創造機構会長様と、天雲香川県副知事様ですが、天雲副知事様は急きょご欠席となりましたため、本日は西原香川県政策部長様に代理出席していただいております。この他に、本日は止むを得ないご事情でご欠席でございますが、委員長の木村ネッツトヨタ高松会長で香川経済同友会特別幹事様、竹崎百十四銀行会長で高松商工会議所会頭様がいらっしゃいます。それぞれにご要職にありながらこのようにお力添えをいただいておりますことを、重ねてお礼申し上げます。

また、本日は委員長の木村様のご欠席のため、地域マネジメント研究科アドバイザリー・ボードに関する規程第 6 条第 2 項により、あらかじめ木村委員長様より委員長代行をご指名いただいております。木村様からのご指名により、松田様に委員長代行として議長をお願いしたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

松田：

本日は、議長をつとめさせていただきます。ご協力のほどをよろしく願います。

本来は、委員長が議長を務めますが、本日木村委員長がご欠席です。先ほど板倉研究科長の挨拶にもありましたように、今回はビジネススクールの現状を把握し、ご意見をいただくことが趣旨ですので、大学側に進行をおまかせしたいと思います。

板倉：

以降は、進行を務めさせていただきます。

それではまず、資料の確認をさせていただきます。全部で 8 点で「座席表」「次第」「ファイルにとじた資料」「新任教員紹介」「情報誌 地域マネジメント」「香川大学ビジネススクール 2011 年度要覧」「学生募集チラシ」「平成 23 年度修学案内」です。そろっていない方はいらっしゃいますか。

事前のご説明資料との主な変更点は 2 点です。

1 点目は、修了生の就職先を加えたことです。ファイルの資料 2 をご覧ください。資料 2 の修了生・在校生の勤務先リストの「新規就職先」のオレンジの列が新たな就職先です。平成 24 年 3 月の香川大学の卒業生の就職率は、学部で 93.4%で 2.6%上昇し、大学院で 95.3%で 1.8%改善しました。香川大学全体の就職率は、中小企業への就職活動など、大企業に偏重していた意識が変化している。地域マネジメントの就職率は 94%となります。さらに中小企業に向けば、就職率は上がると考えられます。また、留学生は即戦力とみなされており、帰国後大手の銀行に就職した者もおります。

2 点目は、資料 11 として認証評価の点検・評価報告書を追加したことです。5 年前にも報告させていただいており、本日は後ほど、この「点検・評価報告書」に基づき、報告させていただくことをご了承下さい。

私どもの専門職大学院は学校教育法で 5 年に 1 度、然るべき認証機関で認証を受けなければなりません。本研究科は、平成 20 年度経営系専門職大学院認証評価の結果、平成 21 年 4 月 1 日付で大学基準協会の経営系専門職大学院基準に適合していることが認定されました。来年度、25 年度に、その 5 年目の認証を受けることになっております。第 2 回の経営系専門職大学院認証評価にあたり、第 1 回の認証評価から 3 年が経過し、できる限り取り組んできたつもりですが、様々な視点から点検・評価することにより、その取組みを客観的に把握し、必要な改善につなげることのできる格好の機会と捉えております。その報告書が資料 11 の「経営系専門職大学院認証評価 点検・評価報告書」です。この報告書は本来の認証機関に提出する報告書案を少し要約したものです。前回認証評価の後の平成 21 からの研究科の運営について、ご意見をいただきたいと思っております。また同時に今後のあり方についても、ご示唆を賜れば大変有り難いと思っております。そこで運営について説明をさせていただきたいと思っておりますが、その前に、恐縮ではございますが自己紹介を賜ればと思っております。それでは委員長代行をお願いしております松田様よりご紹介をお願いします。

松田：

J R 四国の松田でございます。今ご紹介いただきましたように併せて四国ツーリズム業務も担当し、四国への誘客に取り組んでいます。香川経済同友会は木村さんの後で特別幹事を務めています。

鴻池：

大倉工業の鴻池です。丸亀で、大倉の名前は大原とクラボウを合わせて大倉工業という名称になった。元クラボウ出身の松田社長が創業し、発祥は高松で、他の委員の方は製造業がないので貢献したい。

洲之内：

四国電力の州之内です。今年の夏は節電をお願いしていて恐縮です。私は会社の中では人事や労務や秘書関係を担当していて外にはあまり出ません。大学関係ですと香川大学の構想会議くらいです。常盤会長から引き継いで今回初めて参加いたしました。

西原：

香川県の政策部長の西原です。本日は、天雲副知事が所用で出席できませんので、代わりできました。昨日、井原理代先生の講座を聞かせて頂きました。引き続き講座等をやっ

ていったりするのは良いのではないのでしょうか。

県としても協力していきたいのでよろしくお願いします。

板倉：

ありがとうございました。どうぞ、今後ともよろしくお願い致します。本日は、私を含め、9名の教員が参加させていただいております。

米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校にて在外研究中の原真志教授と海外出張で大北健一准教授が欠席です。私から席順に自己紹介させていただきます。

板倉：

研究科長を務めております板倉でございます。私の紹介は、「香川大学ビジネススクール2011年度要覧」の11ページにございます。マネジメント・システムを担当しております。

穴戸：

要覧の9ページにあります。ゲーム理論とオペレーションズリサーチ、四国経済事情の地域活性化と地域政策、地域マネジメントとファイナンスを担当しています。

木全：

要覧の14ページにあります。経営管理論と環境経営を担当して、環境が企業収益のバランスにどう影響を与えるか等を研究テーマにしております。香川県の環境アセスの委員も行っていきます。

高塚：

要覧の6ページにあります。データ分析として統計分析、都市における交通、香川県だと線引き、高松市だとコンパクトシティ、都市開発をテーマとしています。

校内業務では入試委員長をやっています。

牛島：

私は要覧の15ページにあります。昨年度4月から着任しました。地域公共政策と自治

体財政政策を担当しています。総務省から派遣できています。

学内では広報委員長を担当しています。

山田：

13ページにあります。会計を担当していてアカウントティングとマネジメントアカウントティング、インターンシップを担当しています。

学内業務では学生関係委員長をしています。

八木：

今日はお越しくださってありがとうございます。

人事管理論と組織行動論を担当しています。リーダーシップや組織開発、研究とアクションリサーチを研究しています。

学内では教務委員長を担当しています。

亀山：

要覧の8ページをご覧ください。都市経済や産業政策が専門で、地域経済分析と経済分析を担当しています。

高木：

チラシをご覧ください。唯一の地元出身で高瀬中学丸亀高校出身でずっと民間企業でいました。ジャフコにいました。ベンチャービジネスの側にいました。事業創造論を担当しています。

板倉：

以上が本日参加させていただいく者です。よろしくお願いいいたします。

この後は、どうぞ、お食事をしながらお聞きください。

板倉：

それでは、約15分程度お時間を頂戴してこれまでの4年間の説明を先ほどのファイルの資料11の「点検・評価報告書」と説明資料を用いて説明させていただきます。前回の認証評価の平成19年も同様の説明をさせていただいております。まず認証評価についてですが、然るべき認証機関が認証すると申し上げましたが、本研究科では、大学基準協会に認証を受けております。その大学基準協会による認証評価の基準に従い点検・評価し、取りまとめているのがこの報告書です。その基準では、資料11の2ページの目次のように、大きく8つの項目に分けて点検・評価をするというものです。

その1つの項目は、「使命・目的・戦略」で、どういう理念で当該の大学院をつくったかという項目です。2つ目は「教育の内容・方法・成果等」であり、そういう目的に従って然るべき教育内容等が実際に展開されているのかを問うたものです。3つ目は「教員・教員組織」

であり、教員の組織ができてきているかです。4つ目は「学生の受け入れ」で、学生をきちんと受け入れているのかです。5つ目は「学生支援」で、受け入れた学生に対してきちんと支援・指導体制ができてきているかを問うたものです。6つ目は「教育研究環境」で、その学生生活のための、研究教育環境の整備ができてきているかを問うたものです。7つ目は「管理運営」であり、組織の管理運営ができてきているかを問うたものです。8つ目は「点検・評価・情報公開」であり、今回のボードもその一環ですが、自らの取り組みに対する点検・評価を問うたものです。以上のような構成です。そこで今の順に沿いポイントを説明させていただきます。

まず第1の「使命・目的・戦略」については、資料11の5ページにあります。経営系専門職大学院に課せられた基本的な使命である、「優れたマネジャー、ビジネスパーソンの育成を基本とし、企業やその他の組織のマネジメントに必要な専門的知識を身につけ、高い職業倫理観とグローバルな視野をもった人材の養成」に基づき、固有の目的「地域活性化に貢献する教育研究を通して、高い倫理観のもと、マネジメントや地域政策に関する能力を養う。企業におけるビジネス・リーダー、行政におけるパブリック・プロフェッショナル、地域資源を生かして活性化を図る地域プロデューサーなど、地域新時代を拓くプロフェッショナルを養成する。」を設定しています。

ここで資料1をご覧ください。本研究科は、ユニークな存在であります。

第一に、中四国でMBAを発行する唯一の経営系専門職大学院です。

国立大学の専門職大学院のMBAとしては、2004年4月に一橋大学、神戸大学、九州大学に次いで全国で4番目に設置され、現在も、小樽商科大学と筑波大学と京都大学とあわせて7大学のみとなっております。なお、政令指定都市にキャンパスがないのは、香川大学のみです。

さらにユニークなのは、地域貢献を照準にして、研究科の名称にも地域が入っているビジネススクールは、日本にひとつしかありません。

第一期の法人評価でも、研究の上で、香川大学の8部局の中で本研究科だけが質の向上度で「大きく改善・向上しているまたは高い質を維持している」のプラス評価をいただいております。科研費も78%が採択されております。

以上から、十分に差別化はできていると考えております。

したがって、これまでの理念を踏襲することが基本で、それが2つの中長期ビジョンです。項目3の7ページをご覧ください。本研究科は、固有の目的の実現に向けて、次のような中長期ビジョンを策定しております。

- ・地域活性化に貢献する教育・研究を進める。
- ・ビジネスリーダー・パブリックプロフェッショナル・地域プロデューサーを育成する。

さらに、固有の目的や中長期ビジョンの実現に向けて、次のような7つの戦略を実行しています。

1. 経営系と地域公共系の融合的な教育研究を進める。
2. 理論と実務の双方向教育を発展させる。
3. 農業・観光・医療・福祉などとの文理融合の研究を進める。
4. 地域振興とグローバル化を融合した教育研究のコンセプトを構築する。
5. リカレント・プログラムなどを通じ、同窓会を支援する。
6. 四国地域全域と中国地方東部からの学生の受け入れを進める。
7. 多忙な社会人向けに非学位プログラムを検討する。

戦略1, 2はこれまでの特徴を生かす戦略で、連携、融合がキーワードです。

これまでの2つの融合、経営系と地域公共系の融合、理論と実務の融合を発展させようとするものです。

自治体との連携ですが、例えば、昨年度から2年度にわたって高松市から受託いたしました「高松広域定住自立圏における団塊世代の人材活用の調査研究」がございました。来年度も継続課題となっております。地域の絆づくりということで、小学校区単位が地域の単位となるということの調査研究をとりまとめしております。こうした地域活性化のための研究を進めてまいりたいと思います。

三豊市とも全学の連携協定のもとで、サテライトキャンパスが設置されました。また、香川県との研修連携事業として、香川県にご協力いただいているところですが、例えば、昨年度から瀬戸内国際芸術祭の総合ディレクターの北川フラム先生の15回分の2単位の講義を香川県職員の方に無料公開で提供しております。こうした地域とタイアップしたカリキュラムの充実につとめたいと考えております。

戦略3～7は、課題に対応する戦略です。

地域マネジメントの課題は、4つございます。

第1に、新しいニーズに対応する必要がある。農業、観光、医療、福祉などの新しいニーズにこたえる必要があると考えております。これが戦略3です。

例えば、今年は医師が3名入学して医療経営に対するニーズがございます。

医療経営など産業別の授業開催を検討いたします。

(これまでも病院経営の実務ということで長尾新学長の講義や今年度も高松市民病院管理者の塩谷様の講義で対応しましたが、今後は他部局とも連携して産業別の授業を検討したいと思います)

第2に、グローバル化です。

地域振興とグローバル化を誘導した教育研究のコンセプトを構築するというのですが、第一に、四国の企業といえども、グローバルな競争に影響されております。アジアも教育に力をいれております。世界との関係なくしてはなりたたいということがございます。グローバルとローカルとは対立的な概念ではなく、いわば一枚のコインの裏表のような相互に密接不可分な関係になる。

すなわち、グローバルな活動はローカルに深く根ざすべきであり、同時にローカルな主体はグローバルな支持を獲得すべきであると考えます。

例えば、先日、アフリカの方向けに、日本の昭和30年代の産業政策に詳しい方の研修を受けたいという依頼がございました。

行政におけるパブリック・プロフェSSIONALの方が新興国に対して知識を提供することもあるでしょう。また、世界最先端の高齢化社会のビジネスモデルを売っていくということが必要になってきます。これからグローバル化への対応をコンセプトづくりから進めたいということです。これが戦略4です。

第3に、縦のネットワークと横のネットワークの拡大です。

戦略5にありますように、リカレントプログラムを通じて、縦のネットワーク、つまり、同窓会を支援していきたいということと、サテライトキャンパスを通じて、多忙な社会人に配慮したいと考えております。

eラーニングと香川県内のサテライトキャンパスの整備を進めたいということです。さら

に、徳島大学会場に加えて、東かがわで講義配信を開始しており、三豊市、坂出の香川県内のサテライトを整備しており、授業を開始します。これが戦略6です。

第4に、多忙な社会人のニーズに応えきれていないということです。非学位プログラムで、部局や先生方の収入を増やすことができれば、短期の非学位プログラムを検討したいということでございます。その中で行政の地域公共政策士といったことを検討いたします。将来は、MBAと地域公共政策士といった資格の2つがとれるようにすることを検討したいと考えております。これが戦略7です。

以上がビジョンと戦略でございます。本研究科は、全国のビジネススクールの中でも特徴のある、中長期ビジョン・戦略を作成し、実行しております。

次に、第2の「教育の内容・方法・成果等」については、8ページにあります。本研究科は、固有の目的に則して、次のような学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を立てております。

①地域活性化に貢献する上で必要な知識を、理論と実践のバランスを図りながら体系的に習得し、②地域活性化に貢献可能なプロジェクトや調査を企画し、実行し、発表する「総合力」を身につけたと認められるものに学位を授与する。

本研究科では、このような学位授与方針を踏まえて、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を立てております。

教育課程の特徴を一言で言いますと、通常のMBAプログラムに加えて、地域・公共系分野の授業科目の開設です。それにより、マネジメント能力と地域を的確に把握分析する能力の双方を習得できることを教育内容の特徴にしています。これが長所であり特徴だと思っています。教育の方法も通常のレクチャーメソッドによるものもありますが、ケースメソッド等をできる限り取り入れ、専門職大学院ならではの教育内容と併せて教育方法の改善に努めています。

20 ページをご覧ください。3つ目の項目の「教員組織」ですが、これについては、現在の本研究科の定員は教員定員は実質19です。その中で現在は教授9、准教授3名です。専門領域的にみると、通常のMBA、経営系分野の教員と、地域・公共系分野の教員の両方で成り立っています。もう1つ、専門職大学院設置基準に従い、教員の3分の1以上は実務家教員で、実務の高度な経験と能力のある先生を採用しなければなりません。現在それに相当する実務家教員の先生が6名（板倉、木全、牛島、塚田、八木、高木）と、研究者教員6名（宍戸、原、高塚、山田、亀山、大北）です。その意味で本研究科の教員組織は複数の視点から分類可能な、多様な教員からなっているといえます。そういう中で、私どもとしては地域マネジメントという、1つの理念、コンセプトのもとでそれぞれの強みを融合させながら、新しい教育や研究が展開できればと思っています。

25 ページをご覧ください。このような教員組織の中で学生さんたちをどのように受け入れているのが4つ目の項目の「学生の受け入れ」です。本研究科は、高い倫理観を持ち、地域活性化に貢献することを志す、次のような人を求めるといふ学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を設定しています。

1. 企業の創造的変革を先導し、グローバルな視野を持ちながら地域に貢献する「ビジネス・リーダー」を目指す人
2. 行政部門に新たな戦略と行動力をもたらす「パブリック・プロフェッショナル」を目指す人
3. 地域の人々を巻き込み、地域の個性を生かした地域振興を図る「地域プロデューサー」を目指す人

学生募集の選抜方法は学部から進学する一般選抜と、仕事を持っている社会人選抜の 2 種類に分けて募集していますが、実質的には 7 割以上が社会人の方です。ここにおられる委員のみなさまからも、それぞれ優秀な社員さん、職員さんの推薦をさせていただいており、大変感謝申し上げます。できるだけ学生さんに来ていただくということで、募集活動や訪問活動に努めているつもりです。

28 ページをご覧ください。学生生活に対してどのような支援をしているのかが、5 つ目の項目の「学生支援」です。まず修学の支援ですが、私どもは教員全員がアカデミック・アドバイザーとして、学生さんに対して先生が個別的に割り当てられる形で指導・支援体制を取っています。1 年生については、4 月入学式後、教員 2 名がチームを組み、学生 5~6 名を受け持ち、2 年生に対しては、2 年次に履修するプロジェクト演習・研究を担当する複数の教員がアカデミック・アドバイザーを兼ねています。アカデミック・アドバイザーは、学生個々の勉学目的や履修希望を把握し、一人ひとりにふさわしい履修モデルを指導しております。あわせて、学生生活全般の相談員としての役割も果たし、個別の相談に応じています。一方、学生さんたちの自主組織として院生協議会を設置しており、そこからの要望に対して、教員側の窓口が学生関係委員会です。学生関係委員会は、担当委員会として、相互情報交換および学生からの要望・質問等への支援・対応をはかっております。

次に、31 ページをご覧ください。6 つ目の項目「教育研究環境」です。本研究科は 2 つの講義室を専用的に使用しており、教員と学生との多方向の講義形式に合う設計になっています。これに加え 80 名程度収容の講義室を補充しています。また 3 つの講義室とも講義収録システムを含む情報機器を整備しています。学生の教育に不可欠な図書館は午後 11 時 30 分、ラウンジと隣接する PC ルームは 24 時間利用できる体制になっており、社会人にも配慮したものとなっております。

34 ページをご覧ください。7 つ目の管理運営の特徴は事務組織ですが、専門職大学院は基本的に管理運営について学部とは別にしており、独自に教授会を設置しています。だからこそ新しい研究教育に取り組むことができると同時に、小さな組織ゆえに、先生方には大きな組織であれば、やらなくてもいいようなことをやっていただき、ご負担もかけております。本研究科の管理運営の組織は、事務体制が経済学部、法学部、ロースクールと一緒の 4 部局で 1 つなので、そのところの不備が学生さんの側からよく指摘されます。学部学生さんと社会人の方が求める様々な要望は違うのですが、それに応える事務的な体制が整っていません。前回の認証評価においても、その点が指摘されておりました。非常勤で採用している、事務補佐・技術補佐の方が、非常によくやってくれていますが、これは本研究科が発足したときの助成金で一部を採用している状況です。このところは何とかなければと強く思っています。

8つ目の「点検・評価、情報公開」は、省略したいと思います。

以上が、本研究科の現状や取組についてです。

次に、平成23年度地域マネジメント研究科の取組について、関連する資料を用意しておりますので、こちらを用いながら、もう少し説明を加えさせていただきます。

まず、教育活動についてです。

[資料—3] の平成23・24年度入学状況について高塚先生より説明をお願いいたします。

高塚：

資料3の1枚目をご覧ください。昨年度35名に対して志願者が33名で合格者が30名、入学者28名でした。

今年度は通常に戻った感じはあるのですが、志願者43名合格者35名入学者33名です。リクルートということで懇談形式で修了生の方や在校生の方と一緒に企業を訪問させていただきました。

板倉：

[資料—4] の教育プロジェクト・研究について八木先生よりお願いいたします。

八木：

資料4のプロジェクト研究の欄をご覧ください。テーマが時代を映す鏡となっています。2年時にゼミナールに近い形で教員2名から3名で学生4人から5人のグループで1年間プロジェクト研究に取り組みます。昨年度のテーマとしては、農業・自治体・コミュニティビジネス・ソーシャルメディア、貧困、地域スポーツ、映画、さぬきワイン等地域資源に関することや組織内部をいかに改革させるか等がありました。

優秀者の5つのテーマは報告会をしました。

板倉：

[資料—5] の実践型インターンシップについて山田先生よりお願いいたします。

山田：

インターンシップですが、昨年度は、一年生の一般の学生社会人経験のない方4人が対象で、今年度は9人が対象です。昨年度は、約半年間実践型のインターンシップを行いました。通常の学部では体験型のインターンシップを行いますが、実践型は企業の中に入り込んで問題解決を図るインターンシップです。

昨年度はドコモサービス四国で実施しました。45回のミーティング（1回1時間から

2時間)等の活動を行いました。成果としては香川経済レポートへ寄稿し、香川経済同友会で報告しました。

板倉：

[資料—6、7、8]は事前説明と同じですので省略させていただきます。

②③瀬戸内連携ワークショップ「エアラインとフェリー」

⑤深韓流大学 2011inTakamatsu

それから、2012年3月に創刊されました情報誌地域マネジメントについて、亀山先生よりお願いいたします。

亀山：

産業と物流を専門としていて、実践的な動きを行いたくて、産官学というフレーム、都市間連携というフレームを使って、インフラとソフトウェアを相互にいかすような研究をしています。新韓流大学は、香川県とアジアナ航空で就航支援を行い、韓流好きのニーズ調査も兼ねての講演会を行いました。今後も地域との啓蒙活動を行いたい。

板倉：

続きまして、主な行事ですが、

[資料—9]の地域マネジメントとファイナンスなどについて宍戸先生よりお願いいたします。

宍戸：

資料9をご覧ください。地域金融は収益性が低いので、関西学院大学との共同プロジェクトで文科省の補助金を得た。まず教材を作りまして、教育に生かしている。地域マネジメント研究科は文部科学省の補助事業である平成20年度から平成22年度に「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」に、「地域マネジメントを担う金融人材の育成」が採択されました。金融と地域経営に強みを持つ2つの大学院の提携によって、地域金融の専門家育成プログラム(教材およびその利用方法)を開発した。著書とCDの教材は教育に利用されています。(実物を回覧)

牛島：

資料10をご覧ください。広報として新聞、先生方がビジネス香川に寄稿、JR様に中づり広告を行いました。これからもご協力させていただければよいと思います。チラシをご覧ください。裏側にカラーでカリキュラムを体系的に示しました。地域と大学との連携でいろいろと地域の中に入って、研究科長からも話がありましたが、短期コースについて考えています。

板倉：

このような状況です。委員の皆様にご意見などをお伺いしていきたいと思います。
松田会長、どうぞお願いいたします。

松田：

本質とは違うのですが、最近はやりの秋入学についてであるが、春というと逆に派遣しづらい 転勤とかで 香川大学全体では置いておいて、地マネこそ秋入学はあってもよいのではないかと。私は必ずしも賛成ではないが、社会人の側からいうと、転勤の問題があるので、地域マネジメント研究科にはよいと思う。

板倉：

ありがとうございます。

大学全体としては時間がかかるかもしれないが地域マネジメントは転勤のご都合に合わせてるためにも検討したいと思います。

鴻池：

資料1-1を見ると文科省は首根っこをつかまえているが、何か特徴のあることを自由にその方が面白いのではないのでしょうか。

社会人になって、勉強の意味がわかる。自分で考えていない。入学した人間が何をするかビジネス香川の執筆をみると、好きな事を書いている。随分頑張っている。会計の先生を前にしてあれですが、あえていうとレギュレーション、アカウンティングも世界から見たら、経営にいても無国籍ではだめである世のため人のためには理屈というものはない。電力もJRも自分たちの為などありえない。我々も社会に貢献するために事業を行っている。地域マネジメント研究科に関しては、文科省に二重丸をつけてもらうよりも特徴を出すよ。

板倉：

- ・点検の質の保証、ビジネススクール全体の質の向上も課題の一つである。大学基準協会も地方のビジネススクールがどうあるか。
- ・寧ろ地方のビジネススクールのモデルを提案したい。リードしたい。

洲之内：

差別化というか、恵まれた地域、四国だけでなく中国地方も 足元を見続けていくこと、まさに地域からの最大の課題であり、是非継続してもらいたい。地域から認知してもらうことをどうしたらよいか。わが社も派遣させていただいているので、学生募集も認知され

ていればよい。

西原：

認証の話聞かせて頂いてよかった。いろんな職員がいる中で研究を進めていくこと。私が学生時代に大学の教授に聞いたことがある。経営学を専攻していて、教授の答えは方法論を学ばよいいのではないかと教えが残っている。ぜひいろんなテーマを 今日から知事会が 全国から知事が集まっているのですが、都市部と地方で考え方が違う。四国は新幹線になんのメリットがあるのか。国土軸の関係で都市部と地域活性化と地方だけに満足するだけでなく今後も研究して頂ければよいと思う。地方の考えをどのように伝えたらよいか課題である。

板倉：本当にありがとうございました。今後の参考になるご意見を沢山いただきましたことを、大変感謝申し上げます。今日いただきました貴重なご意見を無駄にすることなく、先生方と検討を重ね、取組んでまいりたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。最後のご挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

事前・事後説明記録：

- ・ ネットヨタ 木村会長 2012年7月9日(13:00-14:00)
 - ・ グローバル化への対応が必要
 - ・ ユニクロは社内会議は英語 英語になじむような授業—情報誌の本田さんと同じ
→H16, 17 は「異文化マネジメント」という英語の授業を促進していて最近の学生は企業の社員の内向き志向で海外勤務を嫌がる傾向

- ・ 四国電力 洲之内副社長 2012年7月10日(10:00-11:00)
 - 大美氏は70~80名の社員の前で報告会を行った。
 - もう一人は(慶応義塾大学ビジネススクール)にて研修よりPRできると良い
 - 懇談会、意見交換(非常勤講師と教員、学生)ができるが良い。(夏ぐらい)30代(会社で管理者になる前)が学ぶ時期としては良い。

- ・ JR松田会長 2012年7月10日(11:00-12:00)
 - 仕事と違うのでサテライトキャンパスが良い
 - 自宅で受ける授業は良くない
 - 四国の国立を一つにまとめるのは緩い方がよい。
 - インフォメーションセンターの日本版を考える。

- ・ 天雲副知事 2012年7月9日(16:00-17:00)
 - 修了生の就職先(MBA取得後)をリストに加えてはどうか。
 - 外部資金が香大全体では少ないのでは。
 - どのようにPRして獲得していけばよいか
 - ・ 78%採択され8部局の中で最も高い
(元々人文系は13.5%(金額)21.3%(件数))
 - ①大きな研究資金は戦略的に考える必要があります。例えば代表者になっていると重複制限で申請できない。基盤AやBと萌芽研究なら申請可能といったルールをうまく考えて長期的に考える必要がある。
 - ②科研費ではなく民間の助成金を獲得する

- 百十四 竹崎会長 2012年7月25日(11:00~12:10)
 - 香川大学は総合大学を目指すのか?高度専門職業人の養成を目指すのか?を明確にすべき。
 - 産業分類に意味がなくなっており、同じ産業分類でも色々なことをしている会社

がある。

百十四銀行の採用では、香川大学卒業者が減っている。学生の力が落ちているのではないか？

百十四銀行の新入行員研修はビジネスマナーから行う。自衛隊へ2泊3日の研修も実施している。

地域金融機関の役割について、人材育成は重要、学生派遣もこれまで通り行いたい。

香川県はニッチトップ企業が多い。

中小企業が多く生産性が高い。

→上記2点を人材育成のターゲットにする。

同窓会ができたことはよい。

7期修了生の状況について（牛尾さん）

プロジェクト研究は、観光を中心とする香川県のブームの研究を行った。

II 説明資料

香川大学ビジネススクール2011年度 要 覧

香川大学ビジネススクール2012年3月 情報誌

平成23年度 修学案内

■関係資料

経営系専門職大学院一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料1

修了生・在校生の勤務先リスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料2

■教育活動

1) 平成23・24年度入学状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料3

2) 平成23年度プロジェクト研究一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料4

3) 実践型インターンシップ報告要旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料5

4) 授業評価アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料6

■研究活動

競争的研究資金・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料7

■地域・社会貢献活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 8

- ①平成 23 年度兼業一覧(非常勤講師を除く)
- ②6 月 2 日：第 2 回瀬戸内連携ワークショップ「エアラインとフェリー」
- ③7 月 11 日：第 3 回瀬戸内連携ワークショップ「囲碁によるまちづくり」
- ④7 月 30 日：公開講演会「瀬戸内国際こども映画祭 2011 応援企画」
- ⑤8 月 22 日～12 月 12 日：深韓流大学 2011 i n T a k a m a t s u 全 5 回
一パク先生の美美っと韓流講座 and Cafe

■おもな行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 9

平成 2 3 年

- ①4 月 12 日～7 月 26 日：電気通信普及財団提供講義「地域 I C T マネジメント」全 15 回
- ②4 月 13 日～7 月 27 日：四国経済事情（地域活性化と地域政策）全 15 回
- ③4 月 15 日～7 月 29 日：公開講義「アートと地域活性化」全 8 回
- ④4 月 22 日～7 月 22 日：公開講義「証券市場分析」全 7 回
- ⑤7 月 16 日：香川大学大学院地域マネジメント研究科同窓会設立総会
- ⑥8 月 2 日～8 月 11 日：夏季集中講座「地域マネジメントとファイナンス」全 15 回
- ⑦9 月 1 日～9 月 23 日：四国経済事情（地域活性化と地域資源）全 15 回
- ⑧9 月 22 日：かがわアグリイノベーションズ調印式
国立大学法人香川大学、株式会社百十四銀行、野村証券株式会社、
N A P A（野村アグリプランニング&アドバイザー株式会社）
- ⑨9 月 23～24 日：高知県馬路村合宿・四国経済事情（地域活性化と地域資源）
高知県 馬路村温泉にて高知県馬路村農業協同組合
東谷 望史代表理事組合長による講義
- ⑩10 月 14 日～2 月 23 日：四国経済事情（地域活性化と企業経営）全 15 回
- ⑪11 月 5 日：公開講座・講義内講演
講師：湯本祐司 南山大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻・教授
- ⑫11 月 12 日：公開講座・講義内講演
講師：石坂元一 福岡大学商学部准教授
- ⑬11 月 10 日～15 日：平成 23 年度オープンスクール・ウィーク
- ⑭12 月 4 日：第 8 回香川大学ビジネススクール シンポジウム
「讃岐の島々×地域マネジメント～いってみよう！住んでみよう！豊かな島の生活を求めて～」
- ⑮12 月 8 日：中四国商経学会 第 52 回大会
- ⑯12 月 20 日：公開講座「都市開発政策と都市システム」
講師：雲 和広先生 一橋大学経済研究所・准教授

平成 2 4 年

⑰1月3～4日：浙江工商大学 工商管理学院（MBA学院）への訪問 板倉宏昭研究科長

⑱3月6日：産業人材フォーラム2012
実践型インターンシップ「スマートフォンの利用促進」についての発表

⑲3月17日：プロジェクト研究報告会・関義雄教授、最終講話

⑳3月24日：第7期生修了式・学位記授与式

■付録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 10

㉑新聞・雑誌記事

■認証評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 11